

第1学年 国語科学習指導案

日時：平成 年 月 日 () 第 校時
 場所：1年教室
 授業者：
 児童数：男 名、女 名

1 単元名
 [こえに だして よもう]
 教材名：「くじらぐも」

2 指導の立場
 (1) 子どもの実態

「はなのみち」では、挿し絵から場面の様子をとりえ、登場人物の会話を考え吹き出しに書くことで想像を広げながら読んできた。「おむすびころりん」では、挿し絵や繰り返しの言葉に着目し、動作化をすることを通して場面の様子を想像して読み、リズムを楽しみながら音読してきた。「おおきなかぶ」では、繰り返し高まっていくお話の展開や言葉のリズムを楽しみ、音読や動作化をすることで、より深く読み取れるようにしてきた。

話すことがあまり得意ではない子どもも、話型を示すことで抵抗を少なくしたり、全体で交流する前にペア交流を位置付けたりして進んで話すことができるようにしてきた。全体で交流し、動作化を取り入れながらより想像を膨らませ、本文の言葉に立ち止まり読み取る力を育ててきた。

(2) 本時の指導について

【自分の考えをもつための指導方法の工夫】

繰り返し出てくる会話文と、子どもたちやくじらぐもがしたことを見付けて、視写したり線を引いたりする活動を位置づけ、どの言葉に着目して考えればよいか押さえる。動作化や吹き出しを用いることにより、子どもたちになりきって考えることができるようにする。

【伝え合うための指導方法・指導形態の工夫】

かれて本文のどこを根拠にして考えたのか話すことで、聞き手が自分の考えと比べながら聞き、同じところや違うところを見付けることができるようにしたい。

【ねらいに迫るための必然性のある指導方法の工夫】

「『天までとどけ、一、二、三。』は、3回とも同じ読み方だったか。」と聞き、だんだん声が大きくなっていったことや気持ちが高揚していったことに気付く。

3 本時の目標

くじらぐもに飛び乗ろうとする子どもたちと、それを応援するくじらぐもの様子を動作化することを通して、子どもたちの気持ちが高揚していくことに気づき、くじらぐもに飛び乗ることができるまでの子どもたちの様子を想像し音読することができる。

4 本時の展開

過程	過程の目標	主な学習活動	指導・援助 「深めの発問」「評価規準」
つかむ	これまでの学習の流れを振り返り、本時の課題をつかむことができる。	1 前時の学習を振り返る。 ・子どもたちとくじらぐもが、地上と空で呼び合った様子を思い出す。 ・くじらぐもに飛び乗ろうと張り切った様子を思い出す。 2 本時の課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">くじらぐもに飛び乗る時のくじらぐもと子どもたちの様子を考えて音読しよう。</div>	・前時の挿絵や掲示を見ながら、くじらぐもと子どもたちの会話文を思い出し、本時の場面とつなげて考えることができるようにする。 ・「子どもたちはくじらぐもに飛び乗れたかな。」と聞くことで、本時の学習内容を把握し課題をつかむことができるようにする。
ふかめる	会話文が同じ言葉だと気付き、言うときの様子の違いを考えながら読もうとすることができる。 2回目3回目にみんなで言った時の気持ちを表す読み方を動作化で表現することができる。 徐々に気持ちが高揚していく皆の様子に気付くことができる。	3 一人読みをする。 ・会話文の繰り返しに気付き、様子の違いを考えながら、視写したり音読したりする。 4 全体交流をする 子どもたちとくじらぐものやりとりで、1回目、2回目、3回目の気持ちの違いを動作化する。 1回目の「天までとどけ、一、二、三。」 ・30センチの高さまでジャンプする。・・・「とんだのは、やっと30センチぐらいです。」 ・30センチ跳ぶのって大変。もっとがんばろう。・・・「もっとたかくもったかく。」 2回目の「天までとどけ、一、二、三。」 ・50センチの高さまでジャンプする。・・・「50センチぐらいです。」 ・さっきより思いっきり跳んだよ。 3回目の「天までとどけ、一、二、三。」 ・くじらぐもに乗りたい。今度は絶対乗ってやる。 ・みんなで力を合わせよう。 5 3回の「天までとどけ、一、二、三。」を言った気持ちの違いを考える。 ・だんだん大きな声で叫ぶように言った。 ・3回目は、みんなで心を一つにした。	・3回の違いを考えるために、着目させたい言葉を視写させる。 ・1回目に30センチ、2回目に50センチ、跳べた様子を想像することができるように、その高さを示し、イメージを膨らませて動作化する。 ・ペアになりくじらぐも役、子ども役を交代しながら動作化する。教師がナレーターになる。 ・自分の考えを発表したり、賛成した考えを発表したりして、話し合い活動に参加する姿を価値付ける。 ・深めの発問をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">『「天までとどけ、一、二、三。』は、3回とも同じ言い方だったか。』と聞き、考えを確かにする。』</div> ・自分の考えを発表したり、賛成した考えをハンドサインで表したりする姿を価値付ける。
まとめる	子どもたちの気持ちの高ぶりを意識しながら、みんなで心を一つにした音読することができる。	6 本時のまとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">・みんなで一緒にだんだん大きな声にして、心を込めて言うようになったから、「30センチ、50センチ」とどんどん高く跳べたね。 ・やったあ。みんなが「手をつないで」心を一つにして言ったからとうとう乗れた。</div> ・指名読みをする。(1名) 7 全員でまとめの音読をする。 ・本時、学習したことを生かして音読する。	・子どもたちの気持ちの高まりや、くじらぐもに乗ることができたときの様子を想像して音読をしている。 (読) ・子どもたちの気持ちの変化を考えながら、「天までとどけ、一、二、三。」の表現の仕方を工夫し音読していた子を指名し、よさを広げる。

5 国語科単元指導計画

(1) 単元の目標

- ・場面の様子を想像し、その様子が表れるように声に出して読むことができる。
 < C (1) ア >
 ・登場人物の様子を想像しながら、音読や動作化などを工夫して楽しく読むことができる。
 < C (1) ウ >

(2) 単元を貫く課題

- ・くじらぐもや子どもたちの行動や会話に着目し、場面の様子を想像しながら音読しよう。

(3) 単元指導計画 : 全11時間

時数	目標	主な学習活動	評価規準
一次 1	挿絵を見たり、「くじらぐも」を音読したりすることを通して、誰が何をした場面かに気づき、あらすじをつかむことができる。	・今までに見た雲について話し合う。 ・範読を聞く。 ・挿絵と対応させて、大体のあらすじを捉え挿絵ごとに簡単な題名を付ける。 ・学習の終わりに、音読発表会を知ることを知る。	挿絵を手がかりにして、いつ誰がどんなことをした場面だったかを話している。(話)
2	全文を読み、感想を交流することを通して、読みのめあてが分かり、学習の計画を立てることができる。	・全文を音読し、感想を交流する。 ・場面わけをして場面ごとのめあてをつくり、学習計画を立てる。	感想を話し、読みのめあてを考えている。(関)
3	新出漢字・片仮名の読み方と筆順、言葉の使い方が分かる。	・新出漢字や片仮名の読み方と筆順、言葉の使い方を学習する。	新出漢字や片仮名の読み方と筆順学び正しく書いている。(言)
二次 4	子どもたちとくじらぐもの行動や会話に着目することを通して、くじらぐもが子どもたちのまねをしていることが分かり、くじらぐもと仲良くなっていく様子を想像して音読することができる。	・「が」や「も」に着目して、子どもたちとくじらぐもの動作を役割を決めて、動作化しながら読み取る。 ・まねをするくじらぐもに子どもたちが呼びかける言葉を吹き出しに書いて交流する。 ・「あのくじらは、きつとがっこうがすきなだね。」の音読を工夫する。	子どもたちとくじらぐもの出会いと、くじらぐもが子どもたちのまねをしている様子を、想像して音読している。(読)
5	「くじらもさきました。」「よきた。くものくじらにとびのろう。」に着目し、動作化や役割読みをすることを通して、子どもたちがくじらぐもと呼び合ううちに楽しかったことに気づき、子どもたちがくじらぐもとのやりとりを楽しんでいる様子を想像し音読することができる。	・くじらぐもが誘ったことや子どもたちがくじらぐもととび乗ろうと決めたことを、本文の言葉で確かめる。 ・子どもたちとくじらぐもに分かれて、音読しながら様子を想像し交流する。 ・くじらぐもに誘われた子どもたちが、どんなことを話しているかを想像して吹き出しに書く。 ・「よきた。くものくじらにとびのろう。」の音読を工夫する。	子どもたちとくじらぐもが呼び合う様子や、子どもたちがくじらぐもとのやりとりを楽しんでいる様子を想像して音読している。(読)

6 本 時	くじらぐもに飛び乗ろうとする子どもたちと、それを応援するくじらぐもの様子を動作化することを通して、子どもたちの気持ちが高揚していくことに気づき、くじらぐもに乗った時の様子を想像し音読することができる。	・「やっと三十センチ」「こんどは、五十センチ」を動作化し、会話の部分にこだわって、子どもたちとくじらぐもの様子を話し合う。 ・子どもたちがくじらぐもに乗ったときの言葉を吹き出しに書いて交流する。 ・「天までとどけ、一、二、三。」の音読を工夫する。	くじらぐもに飛び乗ろうとする子どもたちの行動や会話にから、くじらぐもに乗ることができたときの子どもたちの様子を想像して音読している。(読)
7	挿絵や繰り返しの言葉「あいあい」「～のほうへ」に着目し、くじらぐもに乗り海や村や町を見ている子どもたちがどんなことを話しているかを想像することを通して、どこまでも続く広い空の様子が分かり、子どもたちが空の旅を楽しんでいるうれしそうな様子を音読することができる。	・子どもたちをのせて、元気いっぱい進んでいくくじらぐもの様子を挿絵や本文の言葉で確かめる。 ・くじらぐもに乗っている子どもたちどんな話をしたか、話し合う。 ・「どこまでもどこまでも」と書いてあることから、どこまでも続く広い空の様子を話し合う。 ・楽しさやうれしさが表れるように、まとめの音読をする。	どこまでもどこまでも続く広い空の様子や、子どもたちの楽しさやうれしさが表れるように、想像を広げながら音読している。(読)
8	くじらぐもと別れるときの子どもたちの行動や会話に着目し、子どもたちがどんなことを話しているかを想像することを通して、空の旅が楽しかったことに気づき、別れの様子を想像し音読することができる。	・「せんせいがうでどけいを見て、おどろく」という言葉から、先生が何に驚いたか、その時の様子を考える。 ・くじらぐもと別れるときの子どもたちの言葉を吹き出しに書いて交流する。 ・会話文の音読を工夫する。	くじらぐもと別れる時の子どもたちの様子を想像して音読している。(読)
三次 9	くじらぐもに手紙を書き、書いた手紙を読み合う活動を通して、書いたものを読み合う楽しさに気づき、友達に手紙の感想を伝えることができる。	・くじらぐもへのお願いやお礼、読んで思ったことや聞きたいことを書く。 ・友達の書いた手紙を読んで、思ったことを付箋に書いて貼る。 ・友達が書いた手紙で、いいと思ったところを紹介する。	書いた物を読み合い、よいところを見つけて感想を伝えている。(読)
10	音読発表会に向けて、これまでの学習を生かし、登場人物の行動や会話、場面の様子が分かるように工夫して音読練習をすることができる。	・これまでの学習の足跡(掲示物)から話のあらすじを確認する。 ・好きな場面や友達と声を合わせて読みたいところを交流する。 ・選んだ場面をどんなふうに残したらいいか工夫して音読の練習をする。	自分の読みたい場面を選び、登場人物や場面の様子を想像し、工夫して音読している。(読)
11	これまでの学習を生かして楽しく音読発表会に参加し、友達のよさを見付け交流することができる。	・音読発表会の練習をする。 ・グループごとに音読発表をする。 ・音読発表を聞いて、友達のいいところを交流する。	友達の音読の工夫を見付け、感想を伝えている。(読)